



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 22

Aug. 2006

目 次

日本植物分類学会会長および評議員選挙公示.....	2
諸報告.....	3
庶務報告（2006年5月～7月）.....	3
国際植物命名規約邦訳委員会委員の決定について.....	3
お知らせ.....	3
評議員会開催のお知らせ.....	3
書評依頼図書.....	3
第6回(平成19年度)日本植物分類学会賞(学会賞および奨励賞)の 賞候補者の募集.....	4
平成18年度日本植物分類学会講演会のお知らせ.....	5
東京大学植物標本室(TI)連絡先メールアドレスの変更.....	5
平成18年度筑波山の菌類観察会開催のご案内.....	6
「菌類の多様性と分類」平成18年度後期講座開催のご案内.....	6
熊本大学大学院自然科学研究科生命科学講座助教授の公募.....	7
国際栽培植物分類学会(IACPT)の設立大会について(予備情報).....	8
いきもの便り.....	9
コケの孢子体(その2)	
日本植物分類学会選挙人名簿(2006年7月現在).....	10
会員消息.....	20

日本植物分類学会会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 高橋英樹

2005-2006年度の役員の任期が2006年12月末をもって満了となります。日本植物分類学会会則第12条及び役員等の選出についての細則に従い、2007-2008年度を任期とする会長・評議員の選挙を下記の要領で行います。会長選挙投票用紙（白色）、評議員選挙投票用紙（青色）、返送用封筒をニュースレター本号に同封してあります。会長をはじめとする役員は会員の総意をまとめる学会運営・活動の大事な舵取り役です。若手研究者も増え、近年にない活況を見せている本学会の大事な選挙ですので、会員各位の投票をよろしくお願い致します。投票締め切りは2006年9月30日（土）です。

なお、会則第13条の3で定められている、役員の在任期間に関する制限が適用されている方は以下の通りです。これらの方には被選挙権はありませんので、投票されても無効になりますからご注意ください。

評議員の被選挙権なし：秋山弘之、今市涼子、高橋英樹

選挙実施細目

1. 本ニュースレター巻末の選挙人名簿をご覧になり、同封の会長選挙投票用紙（白色）に会長候補者1名を、評議員選挙投票用紙（青色）に評議員候補者8名以内をそれぞれ記入してください。
2. 記入後、投票用紙を二つ折りにし、同封の封筒に入れて郵送してください。封筒にはご自分の住所・氏名を必ず記入してください。
3. 封筒が同封されていないか、あるいは紛失した場合には「会長・評議員選挙投票用紙在中」と朱書きした任意の封筒で郵送してください。なお、投票用紙の再発行はいたしません。
4. 投票締め切り 2006年9月30日（土）（当日消印有効）
5. 開票日時場所 2006年10月9日（月）午後1時半、於：北海道大学総合博物館2階共同研究室（札幌市）。会員2名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができます。立ち会いを希望される場合は、なるべく選挙管理委員長までご連絡下さい。
6. 規定の数を超えて候補者名を書かれた場合、その票は無効になります。また、会員以外の方の名前を書かれた場合は、会員以外の方の部分のみ無効となります。
7. 同姓、あるいはよく似た名前の会員がおられますので、投票に当たってはニュースレター本号の選挙人名簿を参照の上、氏名を略さずにお書き下さい。

投票用紙送付・連絡先

〒060-0810 札幌市北区10条西8丁目

北海道大学総合博物館

日本植物分類学会選挙管理委員長 高橋英樹

Tel. & FAX: 011-706-4508

e-mail: hide@museum.hokudai.ac.jp

*上記の郵便番号は任意の封筒で郵送する場合です。同封の料金受取人払封筒をご利用の際は、そのまま返送下さい。

諸報告

庶務報告 (2006年5月～7月)

庶務幹事 黒沢高秀

- ・Hendrian氏による著書『Muller Mountains: Heritage at the Heart of Borneo』へのAPG誌56巻2号, 56巻3号, 57巻1号掲載論文の写真 (Tsukaya, H. & H. Okada, “*Thismia mullerensis* (Burmanniaceae), a new species from Muller Range, Central Kalimantan”, fig. 1 (p. 130); Tsukaya, H., M. Nakajima & H. Okada, “*Didymoplexiella cinnabaria* (Orchidaceae): a new species from Muller Range, Central Kalimantan, Indonesia”, fig. 1 (p. 208); Okada, H., “A new species of *Aridarum*, Schismatoglottideae, Araceae from the Muller Range, Central Kalimantan, Indonesia”, fig. 1 (p. 62))の転載を会長名で許可した(5月6日)。

国際植物命名規約邦訳委員会委員の決定について

会長 邑田 仁

会則第14条に基づき、「国際植物命名規約(ウイーンコード)邦訳委員会」を発足させ、以下のように委員を委嘱することになりましたのでお知らせします。正文がIAPTより到着次第、作業に入っていただきます。

大橋広好(委員長)、永益英敏(副委員長)、池谷祐幸、海老原淳、岡田 元、黒沢高秀、中井秀樹、根本智行、野崎久義、早坂英介、邑田仁、米倉浩司

お知らせ

評議員会開催のお知らせ

庶務幹事 黒沢高秀

2006年9月15日(金)に熊本大学において評議員会を開催します。評議員、幹事、関係各位の出席をお願いいたします。評議員会の詳しい時間、場所については、この日に熊本大学で行われている日本植物学会のプログラムが確定次第お知らせいたします。

書評依頼図書

庶務幹事 黒沢高秀

下記の図書が書評依頼図書として学会事務局に届いています。書評の執筆を希望される方は学会事務局まで電子メール(kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp)や葉書等でご連絡下さい。なお、執筆者には該当図書を差し上げます。

1. 小川秀一・小川朱実著・撮影(2006)「花かおる戸隠高原」
128 pp. ほおずき書籍. 1000円.
2. 柳沢孝著・撮影(2006)「花かおる湯の丸・高峰高原」
108 pp. ほおずき書籍. 1000円.

第6回(平成19年度)日本植物分類学会賞(学会賞および奨励賞)の 受賞候補者の募集

日本植物分類学会会長 邑田 仁
学会賞選考委員長 加藤雅啓

「日本植物分類学会賞」

分類学に関するさまざまな内容の調査及び研究を通して本学会の発展に特に貢献された会員を顕彰します。

「日本植物分類学会奨励賞」

優れた研究業績をあげた将来有望な研究者(学生を含む)を顕彰します。

以下の要領で受賞候補者を募集致しますので、自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。なお、受賞候補者の選考は「学会賞についての細則」に定める学会賞選考委員会で行います。

募集要領

1. 資格：学会賞選考規定(下記)を参照ください。
2. 応募方法：他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由をお知らせ下さい。必要な資料があれば選考委員会から候補者に提出を依頼します。自薦の場合は、以下の事項をA4用紙に記入して(書式は自由)お送り下さい。応募は、郵便またはE-mailをお願いします。
3. 記入事項(自薦の場合)
 - (1) 日本植物分類学会賞、日本植物分類学会奨励賞のどちらの応募か明記してください。(例：日本植物分類学会賞応募)
 - (2) 候補者の略歴(生年月日、学歴、職歴)

(3) 調査・研究業績の概要

(4) 業績リスト(著書、論文、他)と本学会大会での発表記録。できれば代表的な業績の別刷またはコピーを添付してください。

4. 書類送付・問い合わせ先：

〒305-0005 つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館植物研究部 加藤雅啓 宛
TEL: 029-853-8970 FAX: 029-853-8401
e-mail: sorang@kahaku.go.jp

5. 応募締切日：平成18年11月30日

6. その他：両賞の受賞者は平成19年春の日本植物分類学会大会において表彰されます。また原則として同大会において受賞講演を行っていただきます。

学会賞選考規定(抜粋)

第2条 「日本植物分類学会賞」は植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められたものに授与する。受賞者の資格は、「日本植物分類学会賞」については10年以上継続して本会会員である者とする。

2. 「日本植物分類学会奨励賞」は受賞年の4月1日において満38歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者(学生を含む)に授与する。受賞者の資格は3年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

第3条 受賞者の数は原則として「日本植物分類学会賞」2名、「日本植物分類学会奨励賞」若干名とし、受賞者には賞状および副賞を授与する。

ニュースレターへの情報・ネタ提供、掲載希望の記事や
写真の打診歓迎！ご連絡は下記まで！

三島美佐子

〒813-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学総合研究博物館
Tel: 092-642-4298 Fax: 092-642-4299 Email: mishima@museum.kyushu-u.ac.jp

平成 18 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

田村 実 (大阪市立大学)

平成 18 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦さんに会場をお世話頂いて、次の通り開催する予定です。

【日時】

2006 年 12 月 9 日 (土)
午前 10 時～午後 4 時 40 分

【講演会場】

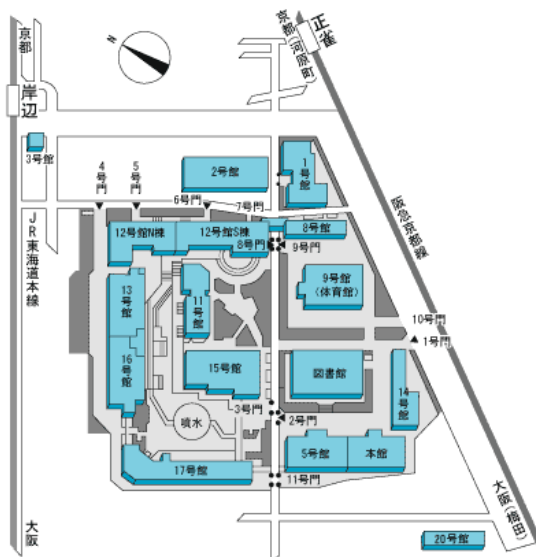
大阪学院大学 2 号館
地下 1 階 2 号教室 (02-B1-02 教室)
〒564-8511 吹田市岸部南二丁目 36 番 1 号
電話：06-6381-8434

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から
大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

【プログラム】

- 10:00 ~ 10:05 挨拶
- 10:05 ~ 11:05 志賀 隆 (大阪市立自然史博物館)
「日本のコウホネ属 (スイレン科) は分類できるのか？」
- 11:15 ~ 12:15 池田 博 (岡山理科大学総合情報学部)
「ヒマラヤの花—極限の世界に生きる植物たち—」(スライド講演)
- 12:15 ~ 13:20 昼食
- 13:20 ~ 14:20 寺田和雄 (福井県立恐竜博物館)
「最古の被子植物 *Archaeofructus* 2 種に見つかった生態的戦略
—復元模型の製作をとおして—」
- 14:30 ~ 15:30 戸部 博 (京都大学大学院理学研究科)
「被子植物の最初の胚のうは 4 核、8 核、あるいは 9 核？」
- 15:40 ~ 16:40 河原孝行 (森林総合研究所北海道支所)
「シベリア・サハリンの植物
—バイカル、ウラジオストック、サハリンの調査から—」(スライド講演)



東京大学植物標本室 (TI) 連絡先メールアドレスの変更

邑田 仁 (東京大学)

先月号のニュースレター No. 21(2006 年 5 月号) で、TI の開室日についてお知らせを出しましたが、記載したメールアドレスに変更がありました。訂正いたします。

正： ti_herbarium@ns.bg.s.u-tokyo.ac.jp

誤： ti_herbarium@bg.s.u-tokyo.ac.jp

サーバーの都合で、@ の次に ns. のないアドレスは使えなくなっております。どうぞよろしくお願いたします。

平成 18 年度 筑波山の菌類観察会 開催のご案内

布村公一（菌学教育研究会）

本年 10 月 8 日（日）に筑波山の菌類観察会を開催します。山頂周辺のブナ林を中心に計画しています。

指導者 根田 仁、土居祥兌

10 月 8 日当日午前 10 時 研究会筑波センター集合。

開催場所 菌学教育研究会 筑波センター：茨城県つくば市 筑波 2074 番地 3～4
詳しくは申込まれた方にご連絡します。

参加費：1 日につき、正会員一般 3,000 円、正会員学生 2,000 円（非会員の方は 1,000 円増）**申し込み**：参加希望者は下記の間合せ先に連絡下さい。申し込みはがきを送ります。**間合せ・連絡先**：①〒 187-0032 東京都小平市小川町 2 丁目 1299-49 菌学教育研事務局

布村公一 TEL & FAX 042-343-6836, E-mail : bzg22155@nifty.com

②〒 305-4352 茨城県つくば市 筑波 2074 土居祥兌

TEL 029-867-2254 又は 090-5440-6882

E-mail : ydsotowa@ce.wakwak.com

③ はがき送り先：〒 190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井 2196-152

近藤和彦 TEL 042 - 597 - 1166 E-mail : hinodekon@ybb.ne.jp

「菌類の多様性と分類」平成 18 年度後期講座 開催のご案内

布村公一（菌学教育研究会）

平成 18 年度「菌類の多様性と分類」前期講座 4 日間コースを、本研究会 筑波センターで下記のとおり開催します。本年度も興味ある講演題となっておりますので奮ってご参加下さい。

講座日程

11 月 10 日（金）顕微鏡の使い方 浅井郁夫・土居祥兌（菌学教育研究会）

11 日（土）ヒダナシタケ目 硬質菌類の分類入門 城川四郎（神奈川キノコの会）

12 日（日）午前：茨城県のキノコ 平井信秀

午後：群馬県のキノコ 須田 隆（群馬県野生きのこ同好会）

13 日（月）菌株保存センターの紹介と植物寄生菌類培養保存株の観察

佐藤豊三（農業生物資源研究所）

開催場所 菌学教育研究会 筑波センター：茨城県つくば市 筑波 2074 番地 3～4

詳しくは申込まれた方にご連絡します。

講座開催時間（目安）：午前 10：00～12：30 および 午後 13：30～17：00**募集人員**：1 講座 11 月 10 日は 10 名、11・13 日は約 25 名、12 日は約 50 名**参加費**：1 日につき、正会員一般 3,000 円 正会員学生 2,000 円（非会員の方は 1,000 円増）**申し込み**：参加希望者は下記の間合せ先に連絡下さい。申し込みはがきを送ります。**間合せ・連絡先** ①〒 187-0032 東京都小平市小川町 2 丁目 1299-49 菌学教育研事務局

布村公一 TEL & FAX 042-343-6836, E-mail : bzg22155@nifty.com

②〒 305-4352 茨城県つくば市 筑波 2074 土居祥兌

TEL 029-867-2254 又は 090-5440-6882, E-mail : ydsotowa@ce.wakwak.com

③ はがき送り先：〒 190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井 2196-152

近藤和彦 TEL 042-597-1166 E-mail : hinodekon@ybb.ne.jp

熊本大学大学院自然科学研究科生命科学講座助教授の公募

高宮正之（熊本大学）

このたび本講座では、下記要領により教員を公募することになりました。
応募希望者は必要書類を揃えて提出して下さい。

記

1. 公募の職名 生命科学講座 助教授 1名
2. 専門分野 陸上植物の生物多様性に関する研究分野
(分類学や生態学及び関連分野に十分な業績をあげている40歳未満の人)
3. 職務内容
理学部「生物環境プログラム」の講義、実習、及び学生の研究指導
大学院自然科学研究科前期課程、後期課程の講義、及び大学院生の研究指導
教養教育の講義、実習
4. 任用予定年月日 平成19年4月1日
5. 提出書類
 - (1) 履歴書 (E-mail アドレスも記入して下さい)
 - (2) 業績リスト (次の項目に分けて提出して下さい)
 - a. 査読のある専門誌に印刷された論文 (印刷中の論文を含む)
(専門誌のインパクトファクターも付けて下さい)
 - b. 紀要その他の論文等
 - c. 総説・解説
 - d. 著書
 - e. 国際会議、国際・国内シンポジウムでの発表 (招待講演には丸印を付けて下さい)
 - f. 受賞等
 - (3) 主要論文の別刷り各1部 (5編程度、コピーも可)
 - (4) これまでの研究概要と今後の研究 (3000字以内)
 - (5) これまでの教育概要と今後の教育への抱負 (2000字以内)
 - (6) 社会的活動 (所属学会及びその中での活動を含む)
 - (7) 科研費等の研究費取得状況
 - (8) 応募者について問い合わせのできる方の氏名と連絡先 (2名)
 - (9) 封書に、「大学院自然科学研究科生命科学講座助教授選考応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送して下さい。
6. 公募締切 平成18年10月31日 (火) (必着)
7. 書類提出先: 〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1
熊本大学自然科学系事務部理学系総務係
 - * 提出書類は各1部で特に様式の指定はありません。なお、提出書類は返却しません。
 - * 最終選考でセミナーを行って頂く場合もありますので、ご承知おき下さい。その際の旅費は自己負担です。
 - * 平成18年度の改組によって、大学院自然科学研究科と理学部は教員組織が統合されました。
 - * 大学院自然科学研究科と理学部の組織、教育体制については、ホームページ (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/index-j.html>) を参照して下さい。
8. 問い合わせ先: 熊本大学大学院自然科学研究科生命科学講座
教授 内野明德
TEL & FAX: 096-342-3448 E-mail: uchino@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp

国際栽培植物分類学会 (IACPT) の設立大会について(予備情報)

池谷祐幸 (農研機構果樹研究所)

来年10月に Wageningen (オランダ) で開催される 5th International Symposium on the Taxonomy of Cultivated Plants (ISCTP) に合わせて開催される、International Association for Cultivated Plant Taxonomy (IACPT; 国際栽培植物分類学会) の設立大会についてご案内したいと思います。まだ具体性に欠ける点が多いのですがご容赦下さい。

栽培植物の分類学は、植物学、農学どちらの分野においてもマージナルな領域であるためか、国レベルでも学会のあるという例を聞いたことはなく、国際学会も近年まで存在しませんでした。しかし、栽培植物の学名の安定や登録、国際栽培植物命名規約 (ICNCP) の改正などの事業を国際的な協調の元に行っていく必要から、国際学会を立ち上げる動きが起き、第3回の ISCTP (1998, Edinburgh) において、設立が決定されました。ところがその後の活動は、実質的に停止した状態にあります。そこで、英国の Royal Horticultural Society (RHS) が中心になって学会の再立ち上げを推進することになり、本年5月に、Dr. C. Alexander (Royal Botanic Garden, Edinburgh) を委員長として準備委員会を開催し、私も参加して参りました。会議では以下の方針が決まりました。

- 1) 2007年10月の設立大会を広くアナウンスし、会員を勧誘する。
- 2) 学会として以下の活動などを行う。
 - i) 国際栽培植物命名規約 (ICNCP) の改正等に関わる事業
 - ii) 栽培植物の学名を安定化させる事業
 - iii) 会誌の発行
- i) は、現在は IUBS の元で英国の C.D. Brickell

が委員長となって組織されている委員会から、その機能を引き継ぐものです。ICNCP の改正等の論議は、今まで外部に開かれていなかった感がありましたが、当学会が行うことにより、IAPT (国際植物分類学連合) が ICBN (国際植物命名規約) に関して行っている事業のように、活発化、透明化することが期待されます。

ii) は、IAPT や UPOV (植物新品種保護国際同盟) などの外部機関と協力して進めることになるようです。iii) は、RHS から本年刊行が開始された "Hanburyana" (<http://www.rhs.org.uk/Learning/publications/hanburyana/index.asp> 参照) を、当学会の会誌として引き継ぐことが検討されています。

上記の事業方針を含む会則も未決定で、設立大会において投票・決定の予定です。また年会費は、20 Pounds/Eur 29 程度で検討されています。

このような状況なので、固まった形では会員の勧誘をまだアナウンスできないのですが、学会のプレマーケティング活動として、準備委員会では、関心のある方のリストを作ることを行っております。

この件につきまして、関心のある方は、お名前、所属、連絡先、メールアドレスを池谷 (malrose@affrc.go.jp、(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所研究支援センター 遺伝資源室 〒305-8605 茨城県つくば市藤本2-1 Tel.: 029-838-6468、Fax.: 029-838-6475) までご連絡ください。多数の方からご連絡のあることを期待しております。まとまった形で提供できる情報が入り次第、お伝えできると思います。

編集後のつぶやき

ようやく夏らしい夏がやってきました。このNLが皆様のお手元に届く頃には、もう秋風の香りが漂っていることでしょう。とはいえ、編集人が在住している福岡は、盆頃にちゃんと秋風がふくのですけれども、そこからの長い・・・昨年は11月頃までなんとなく暑く、蚊が出ていた記憶があります。さて、幹事の任期も残すところあと1号分。編集人は、選挙人名簿をながめながら、次は誰に回そうかな〜と密かに画策しているのであります。ふっふっふ。

by 編集人

いきもの便り

コケの孢子体 (その2)

坪田博美 (広島大学)

コケ植物の孢子体は他の陸上植物と比較したとき、側生器官(葉や花など)を生じないという点で、きわめて特異な陸上植物の一群として位置づけられます。

苔類とツノゴケ類の孢子体は、前回述べた蘚類のものとは大きく異なります。苔類は、孢子体の寿命が短く、蒴が成熟して裂開するとすぐに孢子体が崩壊する点が、蘚類やツノゴケ類と大きく異なります。成熟した蒴は黒から黒褐色の球形からやや楕円体のものが多く、蒴壁が黄色のものや稀には濃紫色のものもあります。また、苔類の蒴は、蘚類の蒴で見られるような蓋(ふた)と壺(つぼ)の分化がなく、蒴歯(さくし)といった構造もありません。蒴が完成に近づくまで保護膜(雌包膜や花被または偽花被)の中に存在するため、あまり目にするがありません。細胞分裂が終わり、蒴がほとんど完成した状態になってはじめて蒴を支える柄(蒴柄; さくへい)が伸張し、孢子体が外部に現れます。その後、縦に蒴壁が4つに裂開して孢子が放出されます。また、蒴歯がないかわりに、蒴の中に弾糸と呼ばれる螺旋肥厚をもった長い細胞が存在し、これが乾湿に応じて動くことで孢子の散布を助けます。散布後、孢子体は蘚類と異なり1から数週間以内に崩壊してしまいます。ゼニゴケなどは、配偶体である葉状体の一部が分化して傘のような形態になり、その下に複数の孢子体を下向きに並びます。岩波生物学事典第4版などでは、苔類の蒴が子嚢とよばれると書かれていますが、実際には現在あまり用いられている例を見かけません。

ツノゴケ類も植物体は葉状体であるため、苔類のゼニゴケ類などの外観に一見似ています。このため、昔はツノゴケ類も苔類に含まれていました。しかし、多くの点で苔類とは異なることが分かってきたため、現在では独立した群であると広く認識されています。ツノゴケ類の孢子体は、その名のおり角(つの)のような形です。ただし、鹿の角のように枝分かれはしません。ツノゴケ類の孢子体は寿命が長く、孢子体の基部にある細胞が分裂し続けます。基部に永久分裂組織があるため、孢子体の古い部

分が上へ上へと押し上げられて、結果的に枝分かれのない角のような形になります。このため蒴は長い棒状になり、先端ほど成熟しています。成熟すると蒴の壁が2つに裂開し、中から孢子が放出されます。裂開すると、蒴の中心に軸柱と呼ばれる組織が残ります。

ほかにも、苔類では孢子体に気孔がなく葉緑体をもちませんが、ツノゴケでは気孔があり葉緑体とピレノイドをもつ点や、孢子になる組織の起源が異なる点なども両者の違いとしてあげられます(図参照)。

配偶体が優勢で孢子でふえる陸上植物は、コケ植物としてひとくりにされますが、孢子体の構造だけを見ても非常に多様であることが分かります。初期陸上植物は一般にコケ植物のような体制をもっていたと考えられ、そのような体制をもつ植物の孢子体が枝分かれするようになり、さらに大きくなって、維管束植物の系統につながったという仮説もあります。しかし、コケ植物、とくに維管束植物にもっとも近い系統群であるとされることのあるツノゴケ類の孢子体の構造を見ると、コケ植物で見られる孢子体が単純に枝分かれするという発想は、孢子体の成長の様子や構造を考えれば非常に考え難く、永久分裂組織があるからと言って単純に維管束植物に直接進化していったと考えにくいものです。どのように維管束植物のような体制をもつようになったのか、今後の研究が待たれます。

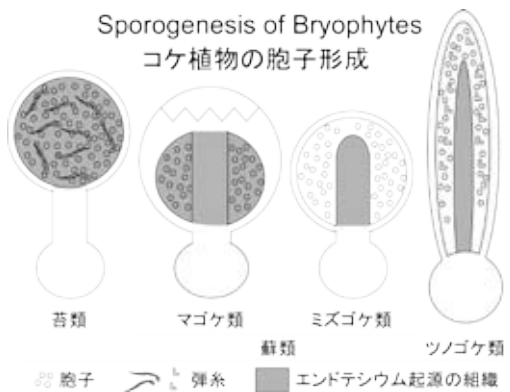


図. コケ植物の孢子形成。灰色がエンドテシウム起源の組織。左から苔類・蘚類のマゴケ類とミズゴケ類・ツノゴケ類。広島大学デジタル自然史博物館 <http://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~museum/> より (作図・出口博則)。

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読
申込などは下記へご連絡ください。

〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館筑波実験植物園

日本植物分類学会 田中法生（会計幹事）

Phone: 029-853-8433

Fax: 029-853-8998

E-mail: ntanaka@kahaku.go.jp

会 費：一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、
団体会員 8,000 円

郵便振替：00120-9-41247

名 義：日本植物分類学会

平成 18（2006）年 8 月 15 日印刷

平成 18（2006）年 8 月 20 日発行

編集兼 福岡市東区箱崎 6-10-1

発行人 九州大学総合研究博物館

三島美佐子

発行所 福島市金谷川 1

福島大学共生システム理工学類内

日本植物分類学会